

## 編集後記

この10月には、物性研の改組が行われました。詳しくは前号巻頭の瀧川所長の記事や物性研ホームページに書かれています。新しく創設された2つの機能物性研究グループと量子物質研究グループの研究理念などをご理解頂き、今後の活動に注目して頂ければと思います。

そして10月と言えば、やはりノーベル賞です。物理学賞については、今号の押川所員の記事を是非ご一読頂ければと思います。一般向けの説明にはとてもハードルが高い「トポロジカル」「物性」のコンビのせいか、残念ながら受賞後全くと言ってよいほど、物理学賞に関する解説はテレビでお目にかかれませぬ。やはり物性研が頑張らなくてどこがやるか、と広報担当としては焦るところであります。また、今年も日本から生理学賞に大隅東工大名誉教授が選ばれましたが、受賞直後から「役に立つ」研究と対比させて基礎研究への理解を求める訴えをされている様子は、今までのノーベル受賞者のコメント風景とちょっと違い、グッとくるのは物性研だよりを読まれている皆様も同じかと思ひます。この度重なる訴えに刺激されるように、全国の34もの大学の理学部長による声明が出され、基礎研究への理解と支援を訴えています。ただ、その声明では運営費交付金と教員の削減の中止も求めています。子供つまりは学生数が確実に減っていく中で、ただ削減を止めろと言うだけでは、財務省の耳に届くのか、いささか不安なところではあります。

それから、10月と言えば、一般公開です、、、と、10月は書く事に事欠かない時期で、編集後記もあつという間にスペースが埋まってしまうました。研究記事紹介ができなくて申し訳ないのですが、1点、末元先生の記事にある「物性研をモデルにして設立されたマックスプランク固体研究所」については、とても気になっています。最後に、お気づきだと思いますが、物性研だよりのデザインが一新されました。それについては次号の編集後記にて。

鈴木博之

